

| 大隈変遷 | 第Ⅰ期 《創建時》 | 第Ⅱ期 《大隈改造時》 | 第Ⅲ期 《虎之助改造時》 | 第Ⅳ期 《古河電工改造時①》 | 第Ⅴ期 《古河電工改造時②》 | |
|----------|---|---|---|---|--|---|
| 年代 | M26~29 (1893~1896) | M30 (1897) | M34 (1901) M36 (1903) M38 (1905) | S20 (1945) S23 (1948) | H30 (2018) | |
| 所有者 | 吉川泰次郎 M26.11取得 吉川慎一郎 M29.01相続 | 大隈重信 M30.5月取得 M34.6月売却 | 古河市兵衛 古河潤吉 古河虎之助 | 古河従純 古河電工 | 国 | |
| 古図面・古写真 | 家屋図[別紙①-A] (作図:M30年代初頭) | 木子文庫図[別紙①-B] (作図:M30~34) | 改築図[別紙②-D] (届け:S5.5月) 古写真[別紙②-C] (M末頃) 航空写真[別紙②-E] (S21) 航空写真[別紙②-F] (S27) | 古河図[別紙③-G] (作図:S27-S34年) 航空写真[別紙③-I] (S36) 縁改造図[別紙③-H] (作図:S35年) 航空写真[別紙③-J] (S39) | 調査図[別紙③-K] (作図:H4年) 現状図[別紙③-L] (作図:R2年) | |
| 改造内容 | 規模 | ・増築(1)北東水廻り風呂便所 ・増築(2)北西台所土間 ・増築(3)南西便所前 | ・減築(1)(2)北東浴室水廻り一部 ⇒浴室の棟は建て直しているか不明 ・減築(3)北西土間 | ・減築(4)(5)(6)北西部一帯(湯殿、台所など)、玄関、南西部一帯(土蔵、蔵前、便所) ・増築(4)(5)(6)(7)(8)広縁幅4尺から6尺へ、西側玄関車寄せ、女中室及び便所等、内玄関及び倉庫、女子浴室西側便所 | ・増築(9) 広間東側: 4尺から7尺へ 広縁南側: 6尺から9尺へ | ・増築(10)(11)(12) 男子浴室東側、ボイラー室西側、ボイラー室北側 |
| | 間取等 | ・間取り変更の有無や詳細不明 | ・改修or改築(1)北東水廻り間仕切り ⇒浴室の棟は建て直しているか不明 | ・改修(2)(3)(4)玄関広間廻り、厨房、和室一部、北東浴室水廻り ⇒浴室の棟は建て直しているか不明 | | |
| | 屋根 | | 〈震災後(推定)〉 | ・主屋上屋: 茅葺から金属葺きへ(寄棟造から切妻造へ) | | |
| | その他 | | | 神代間の棟及び浴室の棟: 改築時期不明(推定: 関東大震災後から昭和34年までの間) | | |
| 資料分析 | 【家屋図記載屋根仕様】 ・主屋上屋: 草葺 ・主屋下屋: 瓦葺 ・主屋内縁下屋: 記載なし ・土蔵蔵前: 瓦葺 | ・家屋図と木子文庫図の比較より、創建時の規模、間取りを概ね踏襲している。 ・風呂、台所、便所の水廻りを増築、改修している。 | ・古河家の所有となった明治34年6月から、大正期にかけて改造の有無不明。 ・関東大震災の被害程度不明。 ・古写真より、神代間の屋根は、内縁範囲を含め、一体の茅葺屋根であることが判明。 | ・木子文庫図と改築図の比較より、木子文庫図の規模間取りを概ね踏襲している。 ・北西台所土間と、北東水廻り一部が減築される。また、北東水廻りは、内部間仕切りが変更されているが、建て直し(改築)かどうかは、図面では不明。 | ・昭和34年1月に古河電工が、既存電気設備調査を実施しており、その調査図が改造後の図面になっている。また、調査内容には、以前改造工事が実施された旨が記載される。 ⇒昭和27年から昭和34年の間に大改造を実施したと考えられる。 ・古河図で初めて『神代』が部屋名称に使用される。 ※この時期に洗濯場の新築、土蔵の移築or新築が実施されたと推定される。 | ・調査図は広縁が拡幅されていないが、大磯のすまい掲載写真より図面の間違いと判断される。(縁拡幅は昭和35年頃) ・ボイラー室、男子浴室水廻りの一部のみが変更される(時期不明)。 |
| 現存建物との照合 | ・家屋図の概略線は、部分的に現存建物の平面構成に酷似する。(大広間の棟、和室8帖の棟、神代ノ間の棟) | ・木子文庫図の時期にに変更された範囲は現存しない。 ・木子文庫図に確認される柱の半数程度は、現存範囲にそのまま残っている(大広間の棟、和室8帖の棟に残り、当初柱と判断される)。当初柱に確認される痕跡は、木子文庫図の間仕切りとほぼ合致する。 [資料5-3] | ・現存する当初と推定される小屋梁のホゾ内に、茅材が残る。(茅葺の葺替履歴不明であり、残っていた茅がどの時期のものか不明) | ・改築図の時期に変更された範囲は、現存しない。 痕跡調査より、神代間の棟は、一旦解体している可能性が高く、旧材を一部再利用し、ほぼ同規模で建て直していると推定される(コンクリート布基礎あり、柱は桧の新材に化粧部のみ杉板を貼付け)。また、浴室の棟は、旧材を全て撤去の上、全て新材を使用し、ほぼ同規模で建て直している(コンクリート布基礎あり)。 ⇒共に改築時期不明(推定: 関東大震災後から昭和34年までの間) | ・現存建物において、古河図の増築(4~8)範囲は、全てコンクリート布基礎が設置されており、大改造の際、設置した基礎と考えられる。また、当増築範囲に使用されている材は、他の古い範囲と比べ、明らかに新しい材が使用されている。 ・ボイラー室や男子浴室廻りの一部以外は、現存建物と合致する。 | ・現存する規模、間取り。 |
| 復原考察 | ・情報は家屋図のみであり、古写真はない。 ・現存しない範囲の規模、間取りや屋根形状、各部仕様など不明点が多い。 | ・情報は木子文庫図のみであり、古写真はない。 ・現存しない範囲の規模、間取りや屋根形状、各部仕様など不明点が多い。 | ・情報は単線の改築図のみであり、古写真はない。 ・現存しない範囲の規模、間取りや屋根形状、各部仕様など不明点が多い | ・情報は、古河図のみであり、その後《古河電工改造時②》改造されているボイラー室や男子浴室廻りは、各部仕様など不明点が多い。 | | |

変遷表について
 ・建物の姿、形に関する情報のみ抽出して整理
 ・変遷期の区分は、時期詳細が不明のものが多いため、大きなまとまりで設定している。
 ・改造はしているが改造時期が確定できていない内容はグレー